

# 復旧農地における肥効調節型肥料の植え溝施肥によるネギ生育改善効果

園芸環境部 土壌環境チーム TEL:022-383-8133

## 研究の目的

津波被災後の復旧農地では、地力不足や排水不良によるネギの生育不良が問題となっています。その対策の一つとして、低保肥力や土壌水分過多などの不良条件でも安定した肥効が期待できる肥効調節型肥料（肥効持続のために肥料成分の溶出を調節した肥料）を用いた、ネギ植え溝施肥による生育改善効果を調べました。

## 研究成果

復旧農地でのネギ秋冬どり作型において、肥効調節型肥料をネギの植え溝に施肥することで、追肥回数を慣行施肥体系の4回から1回に節減でき、さらに2割程度高い収量が得られました（表1、図1、図2）。

表1 施肥設計

年次	試験区	供試肥料（基肥 <sup>1)</sup> ）	基肥 施肥日	追肥 <sup>2)</sup> 施肥日
平成30年	肥効調節植え溝区	ハイパーCDU細粒5 エコロン250-140日	6/9	10/14
	慣行区（全面全層）	CDUたまご化成S555	6/7	7/9, 8/14, 9/7, 10/14
平成31年 令和元年	肥効調節植え溝区	ハイパーCDU細粒5 エコロン250-140日	4/29	10/6
	慣行区（全面全層）	CDUたまご化成S555	4/29	6/17, 7/25, 9/8, 10/6
令和2年	肥効調節植え溝区	ハイパーCDU細粒5 エコロン250-140日	6/12	10/15
	慣行区（全面全層）	CDUたまご化成S555	6/12	7/24, 8/20, 9/16, 10/15

注1)ハイパーCDU細粒5は定植直前に育苗箱に施用。  
注2)追肥は全区ともに燐硝安加里S604を使用。  
注3)上記のほか、全区の基肥施用前に牛ふん堆肥4t/10aを施用。

### 耕種概要

品種：「夏扇パワー」、育苗：チェーンポットLP303（平成30年のみCP303）  
栽植密度：33.3株/㎡（平成30年のみ44.4株/㎡）、定植：4月末または6月中旬、収穫：12月  
試験場所：表層に山土が約30cm客土された南三陸町内復旧農地



図1 ネギの植え溝施肥  
作溝後、定植直前に溝施肥

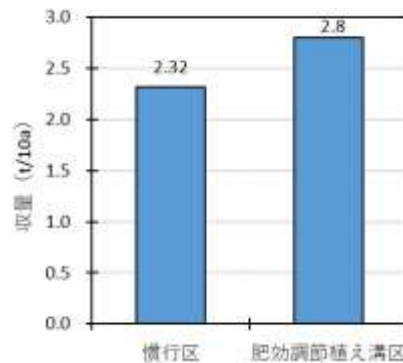


図2 ネギの可販収量  
現地試験（H30～R2）の3年間平均値

## 利活用の留意点等

現地ほ場では牛ふん堆肥や土壌改良資材を施用しているため、リン酸及びカリ含量の低いエコロン250-140日タイプを用いています。

エコロン250には速効性の窒素成分が含まれていないため、ハイパーCDU細粒5の育苗箱施用と組み合わせています。

より詳しい内容は「普及に移す技術」第97号（令和4年発行）「復旧農地における肥効調節型肥料の植え溝施肥によるネギ生育改善効果及び堆肥施用基準」をご覧ください。

[https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res\\_center/hukyuu-index.html](https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/hukyuu-index.html)

